

会 議 録

会議の名称	第2回戸田市都市マスタープラン見直し検討委員会
開催日時	令和6年12月13日(金) 10:00～12:00
開催場所	戸田市役所 5階 501会議室
出席者氏名 (委員)	深堀清隆(委員長・埼玉大学大学院 理工学研究科 准教授)、小嶋文(副委員長・埼玉大学大学院 理工学研究科 准教授)、八木澤順治(埼玉大学大学院 理工学研究科 准教授)、渡辺一実(戸田市町会連合会 会長)、奥墨章((福)戸田市社会福祉協議会 会長)、大野和則(一般社団法人 埼玉建築士会(さいたま南支部))、市ヶ谷昌彦(戸田市建設業協会 会長)、大羽誠(戸田市商工会(商業部会))、松浦眞吾(戸田市商工会(工業部会))、鈴木健史(国際興業株式会社)、藤田貢(一般社団法人 埼玉県乗用自動車協会)、多和田加奈子(市民)、土本茂規(市民)
欠席者氏名 (委員)	芳賀良(市民)
事務局	【戸田市 都市整備部】 早川部長、山碕次長 【戸田市 都市整備部 都市計画課】 今泉課長、宇田主幹、堀江主任、笠原技師、早間主事補 【セントラルコンサルタント株式会社】 小坂、中村、宝満、鷺尾
内 容	(1) 第3次戸田市都市マスタープランの全体構想(案)等について (2) その他
会議結果	別紙(会議の経過)のとおり
会議の経過	別紙(会議の経過)のとおり

会 議 資 料	・ 次第 ・ 資料 1 第 3 次戸田市都市マスタープランの全体構想（案）等説明資料 ・ 参考資料 1 第 3 次戸田市都市マスタープラン 計画体系・現状・課題・全体構想（案） ・ 参考資料 2 第 3 次戸田市都市マスタープラン 資料編（案） ・ 参考資料 3 地域別懇談会資料（案）（下戸田地域）
議事録確定	委員長 深堀 清隆

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<u>1 開会</u> (事務局開会挨拶) (資料及び議題の確認)
委員長	<u>2 委員長挨拶</u> (深堀委員長挨拶)
委員長	<u>3 議題</u> (1) 第3次戸田市都市マスタープランの全体構想(案)等について 議題(1)「第3次戸田市都市マスタープランの全体構想(案)等について」 を事務局より説明いただく。
事務局	(資料1に基づき、事務局より説明) P.1-9
委員長	P.7の追加ポイント[①商業ゾーンの追加]、[②スポーツ・レクリエーション拠点の追加]はP.6の9つの基本目標に盛り込まれているのか。 また、追加ポイント[③住宅政策]、[④ウォーカブルなまちづくりの推進]はどのように分野別方針に反映されているのか。 P.5の全体構成では、見直しのポイントを強調するような表現にしてはどうか。立地適正化計画との関係、防災・ウォーカブルなどについて、今回の第3次戸田市都市マスタープランの計画の目玉となるような点の表現を工夫すると良いと感じる。
事務局	追加ポイント[①商業ゾーンの追加]は、基本目標[⑥拠点のにぎわい形成と生活利便性の高い魅力ある都市づくり]に関連している。 追加ポイント[②スポーツ・レクリエーション拠点の追加]は、基本目標[③多様な都市活動が実現可能な基盤都市づくり]に関連している。

発言者	議題・発言内容・決定事項
委員	ご指摘の通り、追加ポイントが基本目標ではわかりづらく、強調も不足しているため、表現を工夫する。 追加ポイント[③住宅政策]、[④ウォーカブルなまちづくりの推進]は分野別方針[土地利用の方針]に位置付けているが、その他の分野別の方針でも具体的な施策として位置付けられるものがあるか検討し、次回お示しする。 全体構成では9つの基本目標のうち、重点的に取組むものが強調されるように表現する。 追加ポイント[①商業ゾーンの追加]はどのようなイメージなのか。市内の商店は廃業が進んでおり、ビーンズ戸田公園内も空き店舗が目立っている状況である。
事務局	新たに追加した商業ゾーンには、昨年度から都市計画課で推進しているウォーカブル事業をもとに、駅前・道路・公園等を車中心から人中心の空間に転換していきたい。ゾーンの設定については、鉄道3駅周辺を商業ゾーンとして想定し、北戸田駅から始めている。
委員	戸田市は昼間人口が少ないため、商業ゾーンを設定しても消費者がおらず商業が成り立たないと考えられる。それに対する方針はあるのか。
事務局	市外からの流入が少なく、昼間人口が少ないのは、駅前周辺の施設が充実していないことが一因だと捉えている。JRへの働きかけなども行っているが、市ではこれらを課題として捉え、立地適正化計画で都市機能誘導区域を設定している。
委員	P.4の基本理念「このまちで良かった 潤いと活力に溢れ 安心を実感できるまち とだ」は良いと思う。

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	基本理念の説明②の潤いに関する文章について違和感がある。「本市に住んでいる方が潤いと活力に溢れ」としているが、潤いについては「水やみどりあふれる戸田市」の部分に係ると感じる。また、あえて「本市に住んでいる方」としているのはなぜか。戸田市に住んではないが、関係のある方が活力を生み出すこともあるのではないかな。 基本理念の説明③で、「防災機能の拡充、地域コミュニティの強化や防災の取り組み」と防災が重複しているので、まとめたほうが良いのではないかな。 P.5の9つの基本目標の内容が概念的で、何をすれば基本目標を達成できるのかイメージできない。具体的な数値目標を設定するのか。 基本理念の説明②における、「潤い」の文言は人ではなく環境に係る言葉として表現を修正する。また、「本市に住んでいる方」は「本市にかかわりのある方」という表現に修正する。 基本理念の説明③の防災の重複は、前半は防災、後半は防犯に修正する。 基本目標における数値目標の設定は、都市マスタープランが20年後までの計画であるため、具体的な数値を示すことは難しいが、実感の湧くような目標設定の方法を検討する。 また、基本的には本都市マスタープランに基づき、各インフラの個別計画が策定されていくので、個別計画の中で数値目標を立てている。
委員長	補足だが、資料1の基本目標が概念的であることについて、参考資料1 P.31～32の本編上の記載では、文章形式でもう少し具体的な表現になっている。
委員	P.7の追加ポイント[④ウォーカブルなまちづくりの推進]について、戸田公園駅から北戸田駅の埼京線沿いは、現状、緑地もなく人も車も少ないため、有効活用するのも一つの手ではないかな。緑地にもなっていない空き地

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	は JR が所有している土地だと思うので、市と JR で協議して有効活用してほしい。 埼京線の高架下は、環境空間 20m（管理用通路 4m 含む）を JR が管理しており、合意書に基づき、そのうち 3 割を緑地として市が整備している。環境空間の利活用は市でも課題として捉えて、ウォーカブル事業が一つの契機になればよいと考えている。今年度、社会実験として、官民連携で公共空間を活用した賑わいづくりのイベントを行った。第一弾なので、空間が開けていて人が集まりやすい場所として、北戸田駅の笹目川沿いのプロムナード等で実施した。集計作業中ではあるが、おそらく 3,000 人を超える集客があったと思われる。来年度以降、当環境空間でも地域住民と賑わい創出の活動を行って、需要があることを JR に積極的に働きかけていきたい。
委員	私はシルバー人材センターを経由して朝市を応援している。にぎわい創出の方法として、埼京線沿いで朝市を行うことなどが考えられる。空き地であることが勿体ないと感じており、有効活用することでウォーカブルにつながるのではないかと強く思っている。
事務局	今年度の社会実験では、朝市の実行委員や、北戸田駅周辺の地域住民でイベントのノウハウがある方々も企画・運営していただいた。来年度以降、環境空間を JR からお借りして地域の方々が集えるイベントの実施を考えているので、委員の皆様からのご意見があればご提示願いたい。
事務局	（資料 1 に基づき、事務局より説明） P. 10-23
委員	鉄道 3 駅周辺を中心としたまちづくりを進めるのは良いが、3 駅から遠い西側地域は、他地域との人口格差が大きく、利便施設も少ない。笹目地域

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	に住んでいる者として、西側に市の主要施設を作り、駅からのシャトルバスで交通網をつなぐなど、西側の人口が増える施策をお願いしたい。 また、私は町会連合会から出向しており、ミツカン酢工場跡地のマンション約 1,000 世帯が町会に加入していないことを問題に感じている。市民体育祭等で町会が炊き出しをふるまっているが、町会未加入世帯の子どもも一緒になって食べている。町会に加入させる施策はあるか。 公共施設や利便施設が少ない点については、都市マスタープランは面的なまちづくりの方針等を示し、羅針盤として都市の形成を誘導していくものであるため、ある場所に特定の公共施設の配置や民間施設の誘致を方針付けることは難しい。笹目地域の公共交通については、都市マスタープランの中で、市内をバスで繋ぐ交通結節点として下笹目バスターミナルを設定しており、地域別構想で、ここを中心として地域特性を生かした方針を検討する。また、各地区のにぎわいづくりは、住宅の政策で、若年世代も住み易い施策を展開していきたい。町会加入の施策については、現在協働推進課にて加入率の増加に向けた働きかけを行っている。
委員	人口が少なくなると、バス会社は採算の問題で廃止路線が出る。下笹目発西川口行きが廃線になってしまった。もう少し交通の便が良くなれば人口格差が減るのではないか。
委員長	公共交通と防災に関する課題は以降に説明があるようなので、それを踏まえて再度議論したい。
委員	P. 4 基本理念の説明③[安心を実感できる街]は、防災に関する記述があるが、昨今の強盗事件等を踏まえ、防災だけではなく防犯も PR した方が魅力的な戸田市をアピールできるのではないか。 追加ポイント[④ウォーカブルなまちづくりの推進]で、鉄道 3 駅周辺を中

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	心としたまちづくりとあるが、西側地域を含め、市内全域にウォーカブルなまちづくりを広げた方が目標を達成できるのではないかと考えている。 防災に関する内容も基本理念の解説に書き加える方向で検討したい。また、防災・防犯に関する具体的な内容は、この後の分野別方針の項目で説明するので、そちらでもご意見をいただきたい。 ウォーカブルなまちづくりは、まずは市内の中心拠点に位置付けている鉄道3駅周辺から取り組むが、エリアを点在させて、賑わいをつなげていくことも重要なので今後は区域設定を広げていくことも検討したい。
委員	バス路線について補足するが、本年3月に西川口-下笹目路線を廃止してしまいご迷惑をおかけした。市内に鉄道3駅ができてもうすぐ40年になるが、その中で人の流れが変わり、この鉄道3駅のどこにも接続しない西川口-下笹目路線は需要が薄まり、バス路線として維持できなくなった。 現在、事業者目線で需要が多い路線は、下笹目-戸田公園と、下笹目-武蔵浦和である。この路線は工場への通勤で、市民と反対方向に利用する人の需要で成り立っている。したがって、都市マスタープランを検討するにあたり、市民は当然大事だが、来訪者も重要になるのではないかと考えている。
委員	西側地域について、彩湖・道満グリーンパーク等豊かな自然環境や工業地域もあるが、人が住まなければ税金は入ってこない。ここ数十年、西部美女木地域はほとんど市の政策が進んでいない。豊かな自然でスローライフが楽しめるなど、積極的な政策を進めることにより、安い土地や準工業地域に人を呼び、余っている空間をもっと活用して人口を増やすことで、税金を増やし快適な環境形成につなげるため、都市マスタープランを新たな起爆剤とする時期が来ていると感じている。人が集まればバスの需要も生まれるので、先を見通した人口の誘導を考えていただきたい。

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	地域の資源、特性を生かしたまちづくりをする。彩湖・道満グリーンパークを新たなスポーツ・レクリエーション拠点として設定したいので、今後、地域の生活拠点と同グリーンパークをつなぐ公共交通の充実等に向けて、方針・施策の検討を進めたい。P.9の公共交通軸は、関連計画である都市交通マスタープランから引用した図になっており、そちらも改定作業を行っている。当該計画とも十分連携し、ご意見があったことを共有する。
委員	彩湖・道満グリーンパークは休日に多くの人が集まっているが、周辺の消費につながっていないと感じる。車で来ても、周辺に寄る所がなく、帰ってしまう。もっと市内にオフィスビルを整備し、昼間人口を増やさないと、市内の消費が増えず、商業は衰退する。商業活性化より日中人口を増やす施策をしないと発展しない。
事務局	昼間人口が少ないのは、オフィスビルや学校、大学等がないことも要因の一つであると思うが、行政主導で対応することが難しい課題である。彩湖・道満グリーンパークの需要を市内に呼び込む方策の一つとしてウォーカブル事業が想定される。同グリーンパークを中心に歩きたいと思う場所が広がれば、需要も生まれるので、ウォーカブルなまちづくりを市内各所で展開したい。
事務局	(資料1に基づき、事務局より説明) P.24-35
委員	P.34の防犯都市づくりの方針について、まちがきれいだと犯罪が少なくなるというデータ(割れ窓理論)が出ている。まちの美化を最初に行った方が防犯に効果があるのではないかな。道路沿いの花を植えたり、道路沿いの家庭に花を提供したりするのが良いのではないかな。

発言者	議題・発言内容・決定事項
委員長	非常に賛成である。景観づくりでは、景観アドバイザーが協力してくれる体制が進んでいるので、見た目の問題だけではなく、防犯、ウォークアブルなど、まちの機能に対して多面的な効果を期待できる。防犯では、ライトアップで個人の敷地から道路空間を照らして安全にすることや、センサーライトを使い、最近流行っている闇バイト等の侵入者の動きをわかりやすくするなど、まちの安全を考えた議論ができると思う。景観の施策と、防災・防犯の連携は是非検討していただきたい。
事務局	景観づくりによる安全なまちづくりの形成について、方針の中に追加を検討したい。
委員	公共交通について、美女木地区の住民目線では、コミュニティバス（tocoバス）を含めたバス路線がなくなることによって不安を感じている人が多い。コミュニティバス（tocoバス）を含めたバス路線の維持について、公共交通の方針や地域別構想の中で強調していただけると、住民に安心感をあたえられるのではないか。 防犯都市づくりの方針の夜間照明の設置について、歩道の照明設置の優先度を上げてほしい。 余談だが、防災都市づくりの方針で、地震・水害対策も大切だが、都心では富士山噴火の対策を練り始めていると聞いている。風向きの関係で戸田市にも噴煙が来ると考えられるので、少し考慮していただきたい。
委員長	バス路線の話に少し補足すると、市としてできることは、コミュニティバスの整備が考えられるが、本資料には記述が少ない。バスに限らず、他の手段で補完することも考えられるが、方針としてももう少し位置付けられることは無いか。

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	美女木地区のバス路線は、P.9の公共交通軸で、下笹目と北戸田や武蔵浦和をつなぐ路線を重点地区として位置づけている。現在、現行の都市交通マスタープランの改定版として「地域公共交通計画」の策定検討を行っているが、当該計画において西側地域の方針や対策を位置付け、コミュニティバスについても整理する予定である。これら公共交通の方針は都市マスタープランにも反映する必要があるので、所管課の都市交通課と連携の上で内容を整理する。 防犯のための夜間照明の設置は、事業課と調整しながら整備する。 富士山噴火の対策は、地域防災計画を所管している危機管理防災課にご意見を共有する。
委員	バスについて、なくなってしまうという不安感があるため、地域公共交通計画の情報について、しっかりと周知を行っていただきたい。
事務局	その旨所管課に共有する。
委員	P.5の人口動向の課題にある「人口規模の維持」について、昼間人口を増やすために、例えば、彩湖・道満グリーンパークと鉄道3駅周辺の間など、点と点の間に集客施設を置くことで、バス路線も繋がるといった仕掛けがあると良いのではないかと。また、若い人への支援として、シェアオフィスなど、中小企業等への取組は考えているのか。 景観について、戸田市の景観がイメージできない。こういったものが戸田市らしい景観と考えているのか。
事務局	企業又はシェアオフィスの誘致は、都市マスタープランなど都市計画ではなかなか直接的な対応はできないが、土地利用による誘導観点で検討したい。また、企業誘致などの所管である経済戦略室にも情報を共有する。 景観については、戸田市都市景観条例に基づき景観アドバイザー制度を作

発言者	議題・発言内容・決定事項
	り、一定の規模の宅地開発では、景観アドバイザー協議を行う取り組みがある。また、当条例の中で、景観推進地区を設置しており、各エリアで、連続性に配慮した景観を形成していく。 点と点の間の拠点整備については、現時点で具体的な取組はないが、各駅間や北戸田駅から彩湖・道満グリーンパークに向かうまでの、スポーツセンターやイオンモール北戸田などをウォークアブル空間で繋ぐ取り組みや、バスや自転車レーンを使って回遊性を創出していきたい。
委員	水害対策について、笹目川の護岸が斜め整備されており、大雨時に水位が急速に上がる。県に改善要望は出しているのか。
事務局	笹目川の整備状況について、笹目川は埼玉県が管理する1級河川であり、県の事業で自然型護岸整備として整備されている。計画高水位は、県の河川管理者で設定しており、見た目上は不安感があるが、越水することがないように運用を行っているものと把握している。
委員	P.30の(3)水災害における防災方針では、主に内水に対するハード対策が書かれている。荒川が外水氾濫した場合、戸田市全域が3～5mの浸水被害を受ける。関連して、P.3の見直しの視点[②激甚化・頻発化する災害に対応するための防災力の強化]にソフト対策の記述があるが、方針には位置付けられていない。ハザードマップをどのように周知するかなど、ソフト対策の不足を感じた。
事務局	ハザードマップは、戸田市では全戸配布しており、なるべく多くの方に見ていただく機会を作っている。 荒川の外水氾濫対策は、国管理の河川を市で整備することはできないので、第2、第3調整池の早期整備を市長から国へ毎年要望している。

発言者	議題・発言内容・決定事項
委員	バス路線の廃止に対して不安があるという話があったが、市が路線の維持に力を入れても、民間事業者が運行をやめてしまえば廃止になる。 バスの需要が増えても、運賃が固定なので給料への反映までには至らず、担い手不足になることが最大の問題である。運賃と給料のバランスを市民や自治体がどうとらえるかが課題となっている。 公共交通は誰でも使える交通手段であるが、交通空白地域でも、歩ける人や車を持っている人は不便ではない。歩行や運転ができない人が交通不便者なので、交通空白地域だから公共交通を整備するのではなく、交通不便者への政策が出発点ではないか。誰でも使えるようにすると、実は不便な交通機関ができてしまう。本当に交通支援が必要な人の視点で考えると、バス以外の交通手段としてタクシーの位置づけが重要になってくると感じている。 P. 24 の公共交通の方針で、環境負荷の低減や CO2 の削減の考えを入れていただきたい。今後、必ず脱炭素の観点が必要になってくる。 ウォーカブルについて、歩きたくなるまちにするとバスの利用者は減るので、両立は難しい問題となる。縦に並べて書いてあるが相反するかもしれない。ただ歩く人、自転車を使いやすくなることによって交通不便が解消される人が増える可能性がある所以これは兼ね合いである。反対しているわけではない。どのように両立させるかが重要な問題である。 P. 29 の荒川氾濫時の対策について、市内で逃げられない場合、市外に避難することになるので、我々が協力できる部分があれば協力したい。バス本体も市内の事業所から避難させなければならないので、市民の避難などの協力ができる部分があるので、これに関して、別の場所で話をさせていただく。
委員長	これまでのご意見の中で、都市マスでも書けることがあったように思う。 民間事業所との連携や、交通弱者への支援、災害時の交通についても、方針レベルで検討できる部分があれば検討いただきたい。

発言者	議題・発言内容・決定事項
委員長	(参考資料 3 に基づき、事務局より説明)
事務局	最後に先生方からコメントを頂きたい。
副委員長	外国人の人口が増えている背景があるので、交通体系や防災・防犯、地域コミュニティの強化など、外国人視点の方針も重要だと思うので検討してほしい。 また、参考資料 3 の P. 14 の市民アンケートの結果で、「重要度が低い」という表現が適切か、もう一度確認してほしい。
委員	今回、多くの視点からの意見があり、取りまとめが大変だと思うが、可能な限り対応して、更新する事が重要である。
事務局	アンケート結果の文言は再度検討して、修正する。
事務局	(2) その他 次回は令和 7 年 4 月頃を予定している。 内容は「地域別構想」、「実現化の方策」である。
事務局	<u>閉会</u> (事務局閉会挨拶) 以上